



<https://keys-met.com/>

ピアノ伴奏マスターカリキュラム

初級 | 実践ステージ（演奏編）



『もう恋なんてしない』

（槇原敬之）

本スライドの無断転載・転用は固く禁じます。

Copyright © KeysLab All rights reserved.

軽やかさの表現とリズムのキレは、ペダリングがポイント

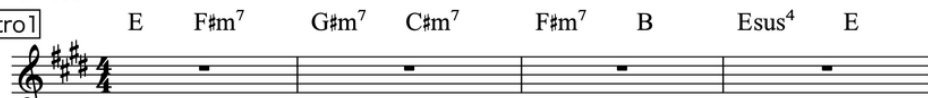
- **4 和音はルートレスボイスニングで軽やかに**：フルボイスニングだと曲の軽快な雰囲気重たくなるため、ルートレスボイスニングでまとめよう。
- **スタッカートを活かすペダリング**：要所に登場するスタッカートは、この曲の聞かせどころのひとつ。リズムに合わせたペダルの上げ下げを意識的に行い、音の切れをはっきりさせましょう。
- **指離しとペダルの踏み替えタイミング**：鍵盤からすばやく指を離す動作がこの曲の演奏のカギ。ペダルで音が伸びている響きを聴きながら、次の和音の踏み替えタイミングを合わせよう。

もう恋なんてしない

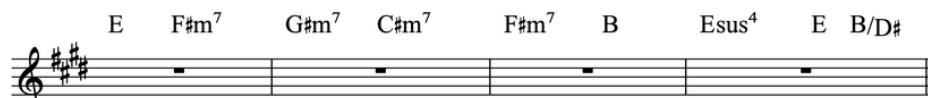
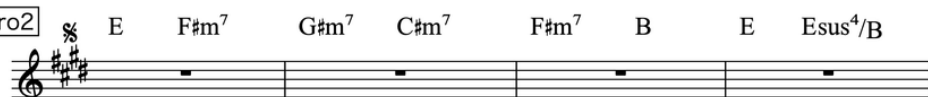
横原敬之

♩ = 105

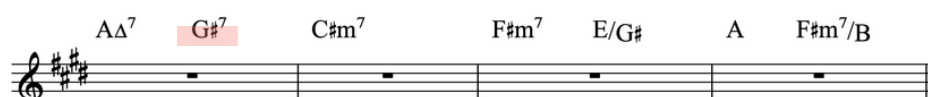
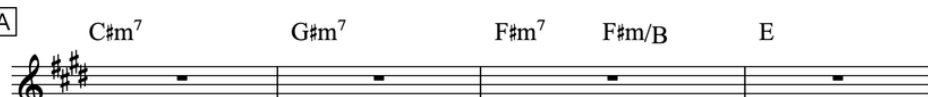
[Intro]



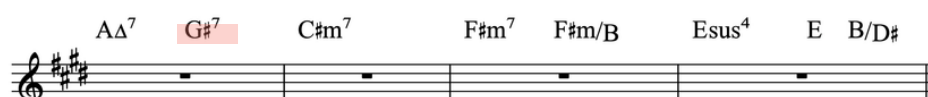
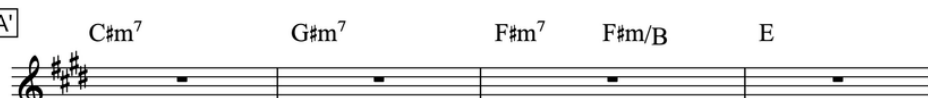
[Intro2]



[A]



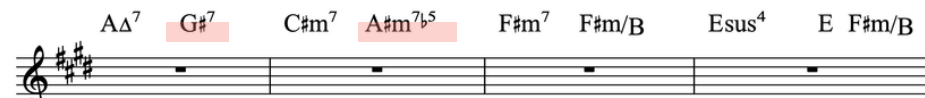
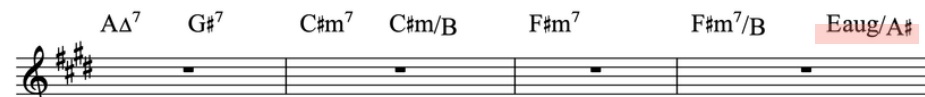
[A']



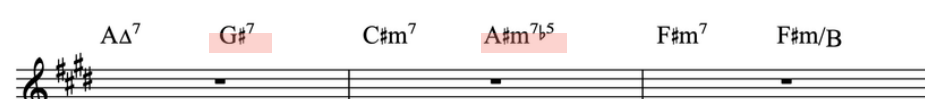
[B]



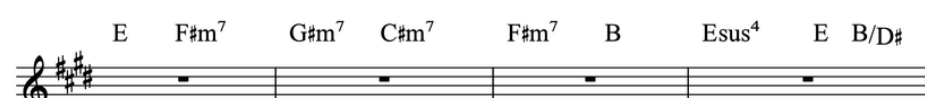
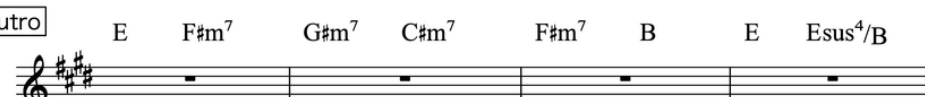
[C]



[2C']



[Outro]

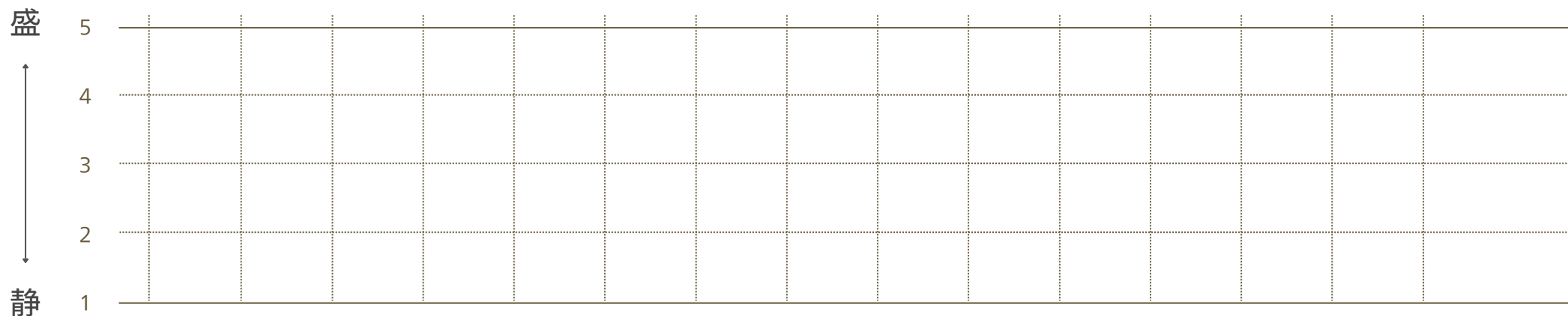


D.S.

曲名：

Key =

♩ =



1. コード譜を用意して、調号からキーを特定する
2. 楽曲再生して、メトロノームアプリを使ってテンポを特定する
3. コード譜を見ながら楽曲を聴き、曲の進み方を確認する
4. 全体像イメージシートにセクション名を書き込む
5. 再度楽曲を聴き、盛り上がりや落ち着いた度合いを感じ取る
6. 盛り上がりの変化を縦軸(盛↔静)に沿って書き込む(クレシェンドの箇所もあると◎)

※盛り上がりは「音量」や「音の密度」で判断し、正確さよりもなんとなくの印象でOK。